

奈弓連だより

通巻 227号

令和3年1月号
発行 奈良県弓道連盟
会長 西中 正
編集担当 松澤和実 山本悦子
連絡先：henshu@narakyudo.jp

会長年頭所感

会員の皆様の協力のもと、数年先を見据えた活動を 進めていきます

あけましておめでとうございます。連盟会員の皆様、
昨年は新型コロナウイルスの影響で日常生活において不便を余儀なくされたこととお察しします。弓道活動でも自粛により、行事の中止、延期等にはご理解ご協力いただき感謝申し上げます。そんな中、いまだ治まらないコロナ問題ではありますが、令和3年射初会は安全対策を講じながら開催できました。例年とは違って人数制限の中、競技性はなくコロナが終息し皆様のご健康で過ごせ、楽しく弓道活動ができること願って、又、昨年末から寒い日が続く中、肅々と一手の祝射をお願いしました。令和3年度の年間行事計画は、例年のように各部が進めていますが、まだまだコロナが猛威を振るっています。全国大会、中央審査、県内行事を楽しみに目標とされている方多いと思います。行事の中止、変更が出されることも想定されますが、ご理解、対応よろしくお祈いします。昨年までは、連盟が活発に活動できることを願って邁進してきましたが、コロナ禍で改めてやろうとして手を付けられなかった事を少しずつ進めることができます。奈良県弓道連盟が昨年で70周年になりました。以前から70周年誌発刊を計画していましたが、この機に、吉本清信名誉会長がたたき台を作ってください、顧問、副会長の先生方中心に歴史を調べることができてきました。今回は発刊には至りませんでしたがお協力くだ

奈良県弓道連盟会長 西中 正



新年射初会における矢渡し

さった皆様に感謝いたします。何周年誌になるか未定ですが、今後発刊できるようにしていきたいと思ひます。世界中に広がった新型コロナが終息しても日常生活、弓道活動が今までのように正常に戻るまで数年の時間がかかると思われます。こんな環境の中、数年先を見据えて、連盟行事の見直しを事務局、副会長、各部と、会員の皆様のご協力、ご意見を反映させながら活動できるように進めて行きたいと思ひます。今年も連盟行事が開催される折は、日頃の精進をいかに発揮されますように祈念して年頭の挨拶といたします。

来年度の予定(近畿)

中止が決定している行事

5月 住吉大社全国弓道大会

開催が検討されている行事

5月～11月 中央審査、臨時中央審査(種別未定)
(現在調整中、情報が入り次第お知らせします。)

5月 関西学生弓道選手権大会

7月 全日本弓道選手権近畿予選会

近畿高等学校弓道大会

8月 国体近畿ブロック大会

9月 近畿地域連合審査(近畿6県各県にて)

10月 近畿大会(兵庫)

(奈良県) 令和3年8月29日と令和4年3月20日の地連審査は、五段を含む審査会として実施する予定です。
(事務局 藤岡順)

奈良県弓道連盟 新年射初会

新しい年の初めにふさわしく肅々と

新年射初会がならでん弓道場で行われました。昨年はコロナの影響で中央審査・連合審査、全国大会は開催されず、昇段者及び年間表彰者の演武はありませんでした。また、コロナ禍での開催という事で、人数制限のかかった行事となりました。それに伴い今年は射礼を中心とした内容で開催致しました。

まずは名誉会長による巻藁射礼が行われました。静寂で凜とした空気の中に甲矢では気迫のこもった矢声、そして乙矢では澄んだ弦音が響き渡り身の



引き締まる
思いが致し
ました。皆
様はどのよ
うに感じら
れたでしょ
うか？射手
の思いは伝
わったので
しょうか？

吉本名誉
会長による
巻き藁射礼



顧問 副会長による一つの坐射礼

それに続き会長の矢渡し、顧問・副会長による一つの坐射礼・一つの立ち射礼が行われ、三人が一体となり弓道で求められる「調和の美」を見せて頂いた演武となりました。その後各支部代表による演武（各一手1回）で締めくくられました。

例年とは内容が異なった射初会となりましたが、



弓道の魅力の一つを体験させて頂き、また新しい年の初めにふさわしい肅々とした良い射会であったと思います。来年は人数制限もなく多くの方々にこの体験をして頂ける事を切に願っております。

副会長による立射礼

【巻藁射礼】

射手 奈良県弓道連盟名誉会長 範士九段 吉本清信

第一介添 教士七段 藤岡順

第二介添 教士七段 吉本清巳

【矢渡し】

射手 奈良県弓道連盟会長 教士七段 西中正

第一介添 錬士六段 松村由喜子

第二介添 錬士六段 綿松昭寛

【特別演武】

◎一つの坐射礼(奈良県弓道連盟 顧問 副会長)

教士七段 新司正人

教士六段 深田紀美子

教士七段 竹村邦夫

◎一つの立ち射礼(奈良県弓道連盟副会長)

教士七段 藤岡順

教士六段 明瀬憲正

教士六段 阪中計夫

【各支部代表による演武】

(競技部 西田ゆり)

大和神社御弓始祭

五穀豊穰・天下太平・コロナ退散を祈り行射

新春恒例の天理市の大和（おおやまと）神社の御弓始祭が1月4日に行われました。この行事は、昭和26年ころから奈良県弓道連盟が奉仕しており、お宮の伝統行事として広く知られております。

本年は、密を避けるため参加人数を例年より少なくし、新型コロナウイルス感染拡大防止対策をしながらの執行となりました。当日は天候にも恵まれ、神事後、五穀豊穰・天下太平・コロナ退散を祈り行射が行われました。

奈良県の支部、団体紹介

五條支部物語

上田康夫



檜皮葺の塚屋は間口五間、両袖に矢除壁の看的場を設け、安土は川砂、矢道は高麗芝
塚屋は西に、築山を南に、暮夜その道場は四季折々の月すべてが道場の一部である。

昭和 34 年（1959 年） 故大畑三千夫師範（大正 4 年生）は 44 歳にして初めて弓の道に足を踏み入れました。

稼業の合間に大阪市、高津神社傍の高津弓道場へ、故菊川秦作（教士七段）先生の薫陶を受け弓馬術礼法小笠原流に心酔され昭和 36 年 3 月入門されました。

師範は高津弓道場での通い練習には物足りず自前の弓道場（大畑弓道場）を五條市の自宅庭に拓きました。それが現在の五條弓友会 五條支部の歴史の始まりです。

五條は風の森峠を越え、北に金剛 葛城山 南は大峰山脈 山々に圍繞される夏は蒸し暑く冬は底冷えのする辺陬の土地です。

春はさくら 夏は蝉しぐれ 秋はすずかけ 草ひばり 冬はつばき（師範は特に椿を愛されました）椿が落ちる頃、築山の蠟梅が新年の近さを知らせてくれます。

裏を返せば、春は良 夏秋は、蛾、小虫の大群、夜蝉の特攻、冬の一月二月の午後十時を下げれば射場は 2℃ 3℃ さながら網走番外地の世界になります。五條支部郎党の冬の強さはそこを発起するからかもしれません。

最初に、的皮にすべての魔・邪気を集め、それらの魔を鏑矢の音で祓うという「暮目の儀」が執行されました。新司正人さんが射手を務め、厳かな雰囲気の中、「ヒュー」という矢音が響き、場が清められました。続いて、宮司が一手を引かれ、年預さんと呼ばれるお宮の役員さんが 3 名、袴の衣装で一手ずつ大的に向かい矢を放たれ、的裏に潜む魔性退散に努められました。その後、天理南中学校の弓道部員の 8 名が、2 人ずつ大的に向かい的中を重ね、家族や学校関係者から大きな声援を受けながら無事執行されました。



最後に、県弓道連盟の会員で女子 5 名、男子 5 名の射手を含め総勢 20 名で百手式が執行されました。百手式をはじめ古式弓道は、足さばきなど現在弓道と異なるところも多く、すぐに出来るとは限りません。射手を務めるには、場の流れ、所作の方法等経験が必要になってきます。興味のある方は、是非参加していただき、伝統行事を引き継いでいただきたいと思います。



集合写真

（深田紀美子）

今月の「歳時記」「量る、測る、計る」はお休みいたします。

平成 28 年（2016 年） 初代道場主（享年 102 歳）が亡くなり家屋すべて売却されることになり支部存続の危機がありましたが幸い同地区にお住まいの森本隆俊氏が住居 道場を買い取られ、また地区自治会のご理解も有り道場は今まで通り使用のお許しを頂き今日に至っております。

五條支部は個人道場から出発しておりますので、おのずと長幼の序というものが明確になっています。

例えるなら江戸時代の牢獄のごとく牢名主が上座に、あとは本座後方に順序よく ちんまり と坐をとります。大前で引くのは牢名主 あとはそれぞれの譲り合い、和気あいあいの道場であります。

以上の通り個人の道場を借りての運営上、公に弓道教室は開けません。新しい会員の発掘は県立五條高校弓道部と近隣在住の志を同じくする者です。

昭和、平成の時代は五條高校弓道部活動後、部員が三々五々支部道場に集い、我々と共に練習に励みインターハイ 例年国体少年 成年の強化選手を輩出しました。

近年、五條高校とは、諸事情により交流が途絶え若い世代の発掘がこれからの五條支部の大きな課題です。

『今も門は開かれています。若き弓人の入門を歓迎いたします。』

さて 今宵も空には星はさざれ、月が出る時刻です。

おのおの弓友、弓具を手に我らが道場に向かって道を駆けている頃でしょう。

私もそろそろ身支度を整え、筆を置くことと致します。

令和 2 年 晩秋

佐平浩 記

布目 108 箭射会

凝縮した時間の中で、行射に集中

布目弓道場において 12 月 31 日の午後 1 時より 108 箭射会が開催されました。108 箭射会は、年末の恒例行事であった 108 中射会に替えて①行事時間の短縮 ②懇親会の中止 ③道場の換気 ④マスク着用（行射時は自由）などのコロナ感染防止対策の下に、参加者全員の総矢数を 108 射とする本年の最後の練習を兼ねた射会です。

午後 1 時定刻に参加者 11 名が集合、矢振りのあと、三人立坐射の演武を開始しました。外は時折雪がちらつく厳しい冷え込みですが、射場には射手の気迫に満ちた弦音が響き、午後 3 時に 108 射の演武は終わり、次いで吉本先生による一手納射をもって射会は終了しました。



吉本先生による納射

密を避けるべく、矢数を 108 射に絞った射会でしたが、凝縮した時間の中で、自己の行射に集中、控えでは他の射手の射と吉本先生の射礼を真摯に拝見しおのずと見取り稽古にもなり、感染対策で弓道の活動にも制約が続いた多難の令和 2 年、参加者にとって今年の練習の掉尾を飾る射納めの場になったものと思います。

午後 4 時前に散会、まだ明るい山添村をあとに帰路につきました。

（報告：眞鍋征史）

編 | 集 | 後 | 記

明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

「常々の稽古をしめてする人は、晴なる時も心まとはず」（小笠原流の歌）平常の稽古を引き締めて丁寧にする人は晴れの場所でも俄かに改まる必要もなく平常の射形で射ればよいから何の迷いもなく悠然

として射られるので射損じも少ないものであるとの意（弓道小事典より）審査や競技会でも例年とは異なる状況ではありますが、気を引き締めていつもの練習を行いたいと思います。本年も皆様の活躍をお伝えできるよう努めます。ニュース、写真など積極的な投稿をお待ちしております。 編集担当 山本悦子